

# イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年2月1日作成 (株)新出光

## 【月次概況】

●第1週、1/7のWTI原油は、先週比3.69ドル高の78.9ドルとなりました。OPECプラスは、1月4日オンライン閣僚級会合を開催し、日量40万バレルの小増産を続ける従来方針を2月も維持すると発表しました。発表を受け、供給過剰懸念が後退し原油は買われました。中東アジアの旧ソ連構成国カザフスタンでは、反政府デモが拡大しロシア主導の軍事同盟が平和維持部隊を派遣するなど全土に混乱が広がっています。デモを支持する一部の契約業者が、原油輸出に利用される鉄道の運行を妨害した影響で、カザフ最大のテンギス油田の生産量が減少しました。またOPEC加盟国のリビアの産油量が送油管のメンテナンスや油田封鎖によって減少しており供給逼迫への懸念が支援材料となり原油は買われました。

●第2週、週末1/14のWTI原油は、先週比4.92ドル高の83.82ドルとなりました。米エネルギー情報局(EIA)が発表した1月7日までの米原油在庫は、前週比460万バレルの大幅減となり7週連続の取り崩しとなりました。オミクロン株の感染拡大の影響が限定的との見方が広がっており需給引き締め傾向が続いています。またロシアがウクライナに近く侵攻する準備を進めているとの懸念をホワイトハウス表明したことで地政学的リスクを背景に原油は買われました。

●第3週、週末1/21のWTI原油は、先週比1.32ドル高の85.14ドルとなりました。イエメンの武装組織フーシ派がUAEの主要空港をドローンで爆撃、17日、その報復としてサウジアラビア主導の連合軍がフーシ派の拠点などを空爆しました。18日、トルコ南東部の送油管で爆発があり火災が発生しイラクからトルコの輸出港への原油輸送が一時停止しました。これをうけて供給逼迫懸念が高まり原油は一時87.91ドルまで上昇しました。20日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、原油在庫が50万バレル増と市場予想の90万バレル減に反して増加し、ガソリン在庫も590万バレル増と大幅な積み増しとなり利益確定売りに押され相場は下落しました。

●第4週、週末1/28のWTI原油は、先週比1.68ドル高の86.82ドルとなりました。ロシア軍によるウクライナ侵攻への懸念が深まる中、原油価格のリスクプレミアムが上昇しています。天然ガス輸入の約4割をロシアに依存する欧州連合(EU)は供給制限に備えて米国などとの連携を確認しました。英国産北海ブレント原油の先物市場では、期近物の価格が期先物を上回るバックワーデーション(逆ザヤ)が急速に拡大しWTIにも買いが波及しました。

1月平均	WTI原油	83.0ドル	前月比	11.31ドル	為替 1ドル	115.85円	前月差	0.97円
------	-------	--------	-----	---------	--------	---------	-----	-------

日付	出光興産	変動幅	ENEOS	変動幅
1/1~1/5		-0.5		-0.5
1/6~1/12		+5.0		+5.0
1/13~1/19		+2.0		+2.0
1/20~1/26		+2.0		+2.0
1/27~1/31	補助金-3.4含む	-0.9	補助金-3.4含む	-0.9

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年10-12月C重油決定価格	70,020	72,020	【70,020(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	2022年1-3月C重油仮価格	72,190	74,190	【72,190(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	2022年1-3月C重油決定価格			
	決定価格10-12月比			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2021年10-12月C重油決定価格	76,000	81,700
	2022年1-3月C重油仮価格	79,400	
	2022年1-3月C重油決定価格		
	決定価格10-12月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	21/12	9桁速報	58,991	82.28	113.99	166
	22/1	最終予測	56,359	78.03	114.83	-2,632
	22/2	展望	60,566	84.46	114.00	4,207
	22/3	展望	63,183	88.50	113.50	2,617

## 【次世代エネルギー】<住友商事・大島造船 世界に先駆けアンモニア燃料貨物船開発へ>

住友商事は12月27日、グループ会社の大島造船所と共同で、アンモニアを燃料とするドライバルク船の設計・開発を本格化すると発表しました。2025年内の竣工を目指し、竣工後は同船の保有・運航を通じて、ドライバルク船の需要家におけるサプライチェーン排出量の削減に寄与するとしています。ドライバルク船とは鉱物資源や穀物、木材チップなどの輸送船のこと。住友商事は同船の設計・開発に向けて、大島造船所を中心とした社外パートナーに加えて、社内で発足した「アンモニア組織横断プラットフォーム」とともに、船体の開発から燃料供給などの航行環境の整備も進めていく予定です。国際海事機関(IMO)は、2018年に採択した国際海運に関する「GHG(温室効果ガス)削減戦略」において、2008年比で国際海運に従事する船舶の平均燃費を2030年までに40パーセント改善すること、GHG総排出量を2050年には半減することを目標に掲げています。これを受けて、海事産業では、環境負荷が低いアンモニアや水素などの代替船舶燃料への移行や、GHG排出削減のための機器導入が求められています。中でもアンモニアは水素に比べ液化保存が容易な特性があり、一度に長距離を航行する外航船舶の代替燃料として注目されています。【出典 ①[https://article.auone.jp/detail/1/3/6/211\\_6\\_r\\_20220108\\_1641593462726192](https://article.auone.jp/detail/1/3/6/211_6_r_20220108_1641593462726192)②<https://www.kankyo-business.jp/news/030607.php>】

## 【2月価格変動要因】

●需要面: IEAの月報で2022年10~12月の需要が、日量50万バレル引き上げられました。オミクロン株による影響も軽微であることが判明しており需要は、拡大傾向にあります。

●供給面: IEAによると2022年の世界の原油供給は、640万バレル増加の可能性があります。しかしながらOPECの昨年12月の生産量は、日量9万バレル程度しか増加しておらず今後も増産計画に対する下振れが続くとIEAの見通しも下方修正せざるを得ない可能性もあります。またロシア、ウクライナ情勢の緊迫化によってロシアの生産量も下振れする懸念が生じています。

●リスク資産: 米国が年4回以上の利上げも視野に入れる状況下、リスク資産である米国の株式相場は、調整局面入りしています。特にハイテク株の下落が目立ちマインド悪化から欧州や日本の株式相場も影響を受けています。株価が下落すれば原油も連れ安になる可能性もあります。

●投機筋: 足もとの需給逼迫感から投機筋は大きく買いを積み増すように見られていましたが、去年の3月につけた直近の残高水準には10万バレル程及ばない状況です。原油価格100ドルという節目を警戒している可能性があります。100ドルを上抜けるとむしろ買いが先行する可能性もあります。

●地政学: ロシアとウクライナ情勢については、いよいよ緊迫感が無視できないレベルに達しています。一発触発といった雰囲気も見て取れ米国を中心とした西欧諸国の今後の対応に注目が集まっています。

## <2月価格見通し> (単位: US/bbl)

	Brent	WTI
High	100	98
Average	90	88
Low	80	78

日付	国	2月経済指標カレンダー	日付	国	2月経済指標カレンダー
1	米	1月ISM製造業景況指数	10	米	1月消費者物価指数(CPI)
2	欧	1月消費者物価指数(HICP、速報値)	15	欧	10-12月期 四半期域内総生産(GDP、改定値)
2	米	1月ADP雇用統計	16	米	1月小売売上高
3	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利	16	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
3	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見	23	欧	1月消費者物価指数(HICP、改定値)
3	米	1月ISM非製造業景況指数	24	米	10-12月期 四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
4	米	1月非農業部門雇用者数変化	24	米	新築住宅販売件数
4	米	1月失業率	25	米	1月個人消費支出(PCEデフレーター)
4	米	1月平均時給			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。